



(写真・文 水中カメラマン 佐藤長明さん)

コケギンポ

色には地域差があり、南三陸カラーには、こんなにも美しい体色を持つものもいます。

怒髪天を衝く!

どはっせん
残暑厳しかったこの夏も気がつけば過ぎ去り、木々が色づく季節となりました。水中は季節が1〜2カ月ほど遅くやってくるため、陸上との気温差もなくベストシーズンの到来となりました。

さて、今月ご紹介するタイトル「怒髪天を衝く」を広辞苑から引用すると、頭髪の逆立った、ものすごい怒りの形相とされています。まさに写真の魚(右)を見るとびっぴりの表現ではありませんか。なぜこんなにも怒っているのかと言うと、右側の魚はメスから託された大切な卵を守っているからです。そこへ別なオスが近付いたため「こっちへ来るな!」と威嚇している様子なのです。

卵を守ったり、縄張りを警戒したり、メスをうばいあつたりと四季を通じて様々な生き物たちが多様な作戦で生き残る様子には、毎度のことながら驚かされます。

編集後記

▶合併5周年と共に清々しい秋の季節がやって来ました。今月のインタビューでALTのケイトリンさんが「休日は散歩を楽しんでいる。」と話していましたが、私も毎日のように子どもたちと散歩をしています。ただし私の場合は、カマキリ獲りが目的です。▶この時期、夜になると街灯や店の明かりにたくさんのカマキリが集まってきます。虫好きの息子がそれを見逃すはずもなく、いくら仕事で疲れていても、カマキリ獲りに行かされるのです。▶その昔、フランスの小さな村にジャンという少年がいました。少年の家庭はとても貧しく、幼いときに祖父の家に預けられたのですが、自然豊かな環境にあるそこでたくさんの虫たちと出会い、虫のことが大好きになりました。その後、少年は36年間も虫の研究に没頭したそうです。少年の本名は、ジャン・アンリ・ファブルといい、1878年に「ファブル昆虫記」という有名な本を出版しました。36年間というと私はもう70歳を超えています。何十年か後、若い青年と杖をついた老人が一瞬懸命に虫を獲っている姿を見かけたときは…、その老人の頬を流れる涙をそっと拭いてあげてほしいと思います。 担当 加藤

わが家のアイドル



あゆ
小野寺 愛優ちゃん

(㊟大森町)

平成22年2月7日生まれ

パパ 大樹さん

ママ 美穂さん

おうちの方から一言

いつでも誰にでもニコニコ笑顔、よく飲み、よく食べ、よく寝るあゆちゃん。何にでも興味津々でイタズラ得意!!

これからも元気で、みんなから愛される優しい子になってね☆